

日本語学会第 146 回大会 プログラム

会 長
大会運営委員長
大会実行委員長

梶 茂樹
藤代 節
岡崎 正男

期 日：2013年6月15日（土）、6月16日（日）

会 場：茨城大学(水戸キャンパス) 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1

Tel：029-228-8144 Fax：029-228-8199（大会実行委員長 岡崎正男宛）

Email: ibarakigengo@yahoo.co.jp

共 催：茨城大学

※駐車場はありませんので、自動車でのご来場はご遠慮下さい。

※キャンパス内は指定の場所以外での喫煙は禁止されています。

— 第 1 日（6月15日） —

午前中	評議員会 (評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。)	人文学部 A 棟 201
12:00—	受付・大会予稿集販売	人文学部講義棟 10 番教室前廊下
13:00—18:00	口頭発表 (詳細は 2-3 頁にあります。)	人文学部講義棟 1 階、2 階
18:15—20:00	懇親会	大学会館レストラン

— 第 2 日（6月16日） —

9:30—	受付・大会予稿集販売	人文学部講義棟 10 番教室前廊下
10:00—12:00	ワークショップ (詳細は 4 頁にあります。)	人文学部講義棟11番教室、15番教室
11:00—12:50	ポスター発表 (詳細は 4 頁にあります。)	人文学部講義棟28演習室、29演習室
13:00—13:40	会長挨拶 開催校挨拶 (神永文人 茨城大学 学術担当副学長) 会員総会 日本語学会学会賞授賞式	講 堂
13:40—16:20	公開シンポジウム 「アジアとアフリカの言語地域」 司会 西山 國雄 (茨城大学) コメンテーター ジョン ホイットマン (国立国語研究所) 「類型なのか、言語地域なのか？—日本語は北東アジアの言語なのか？—」 風間 伸次郎 (東京外国語大学) [S-1] 「動詞中置はクレオール化に於ける必然なのか？—言語地域としての大陸東南アジア—」 藤井 文男 (茨城大学) [S-2] 「内的要因か、外的要因か、両方か？—東インドネシア言語の一致形態素の発達—」 西山 國雄 (茨城大学) [S-3] 「アフリカの言語地域と言語地域としてのアフリカ」 河内 一博 (防衛大学校) [S-4]	講 堂

公開シンポジウムはどなたでもご参加いただけます。

■口頭発表（6月15日(土) 13:00-18:00)

	A会場(11番教室) 司会：[1-2]呉人 恵 [3-4]内海 敦子 [5-6]津曲 敏郎 [7-8]斎藤 純男	B会場(12番教室) 司会：[1-2]野村 益寛 [3-4]本多 啓 [5-6]三宅 知宏 [7-8]芝垣 亮介
13:00-13:30	[A-1] 佐々木 充文 「私-市長 私-だった」：ナワトル語における名詞の指示対象人称標示	[B-1] 平沢 慎也 英語の by way of から見る多義と同音異義
13:35-14:05	[A-2] ブガエワ アンナ 「父は並ぶものがない長者だった」—アイヌ語における関係節を用いた最上級表現—	[B-2] 森 博 「V 落とす」と「V 漏らす」における意味的制約：概念メタファーの観点から
14:15-14:45	[A-3] 長屋 尚典 ラマホロット語の二つの所有標識と名詞化	[B-3] 阪口 慧 形容詞の肯定・否定のスケール性に関わる意味・機能変化に関する一考察 —日本語形容詞「やばい」を中心に—
14:50-15:20	[A-4] アリ アルタディ レアリティ概念からみたインドネシア語の kalau・jika・bila 条件文の用法	[B-4] Naoko TOMITA Language-specific patterns of motion event description by Japanese and German speakers
15:20-15:40	休憩	
15:40-16:10	[A-5] 江畑 冬生 サハ語（ヤクート語）の引用における対格名詞句	[B-5] 眞野 美穂, 樋口 薫乃 借用語における形態素脱落の実態：-ed/ -ing の場合
16:15-16:45	[A-6] 松本 亮 エヴェンキ語に複合語はあるのか—名詞句内の語結合の方法について	[B-6] 日高 俊夫 語彙的複合動詞の自他交替—他動詞化・再帰化を中心に—
16:55-17:25	[A-7] 梅谷 博之 モンゴル語における preverb と動詞との間の結合度	[B-7] Natsuko NAKAGAWA The distribution of zero particles and markedness in Japanese dialects
17:30-18:00	[A-8] 山崎 雅人 満洲語文語の可能表現に見る文法化の展開	[B-8] 鈴木 基伸 ヤスイ・ニクイの意味決定に関与する「性質の帰属先」

	C会場(13番教室) 司会：[1-2]張 麟声 [3-4]井上 優 [5-6]青木 博史 [7-8]斎藤 倫明	D会場(14番教室) 司会：[1-2]伊藤 智ゆき [3-4]福井 玲 [5-6]田中 伸一 [7-8]田端 敏幸
13:00-13:30	[C-1] 馬 一川 仮定複文接続表現の日中対照 —“如果 p, 就 q”、“如果 p, 那么 q”、“如果说 p, 那么 q”構文を中心に—	[D-1] 李文淑 中国黒竜江省尚志市で話される朝鮮語の複合語アクセント
13:35-14:05	[C-2] 早川 杏子, 玉岡 賀津雄, 初 相娟 中国人日本語学習者による物理・精神活動動詞に対する格助詞「に」と「ヲ」の習得	[D-2] 韓 喜善 韓国語ソウル方言の平音・激音・濃音の実験音声学的研究—先行母音と後続母音における高さ、強さ、およびフォルマントの時間的変化について—
14:15-14:45	[C-3] 初 相娟, 玉岡 賀津雄, 早川 杏子 中国人日本語学習者の場所を表す格助詞「で」と「に」の習得に及ぼす諸要因	[D-3] 姜 英淑 韓国語の麗水突山方言の用言のアクセント
14:50-15:20	[C-4] 朴 善娟, 玉岡 賀津雄, Michael Mansbridge 韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の処理に及ぼす母語の影響 - 眼球運動による測定	[D-4] 孫 在賢 韓国語巨済方言のアクセント
15:20-15:40	休憩	
15:40-16:10	[C-5] 五十嵐 啓太 「の(だ)」文と「わけ(だ)」文の比較：命題選択の観点から	[D-5] 儀利古 幹雄, 桑本 裕二 鳥取県倉吉方言における名前のアクセントの変化—中高型アクセントの消失—
16:15-16:45	[C-6] 原田 幸一 クナイ・ジャナイの縮約率の分析—一般化線形混合モデルを用いて—	[D-6] 杉本 貴代 幼児の連濁の獲得に関する横断的研究—語種とライマンの法則を中心に—
16:55-17:25	[C-7] 今田 水穂 オントロジー体系を用いた名詞述語文の意味記述	[D-7] 橋本 大樹 マレー語における愛称語形成と韻律構造
17:30-18:00	[C-8] 秋本 隆之 移動を表す複合動詞「V+込む」の統語的分析	[D-8] 上田 功, 江戸 智美 商標登録における音声的類似—予備的考察—

	E 会場 (15 番教室) 司会：[1-2]滝浦 真人 [3-4]加藤 重広 [5-6]時本 真吾 [7-8]萩原 裕子	F 会場 (24 番教室) 司会：[1-2]藤井 友比呂 [3-4]宮本 陽一 [5-6]橋本 喜代太 [7-8]長谷川 宏
13:00-13:30	[E-1] 張 瑞豊 日本と中国における依頼行為のとりえ方—ポライトネスの観点から—	[F-1] Hideki MAKI, Dónall P. Ó BAOILL Clausal arguments in Irish
13:35-14:05	[E-2] 曹 芳, 田中 大輝 再依頼における日本語と中国語のポライトネス・ストラテジーの違い	[F-2] Lina BAO, Megumi HASEBE, Hideki MAKI Quantifier interactions in modern Mongolian
14:15-14:45	[E-3] 高 恩淑 日本語と韓国語の「否定の応答文」における述語形式のズレ	[F-3] 坂本 祐太 モンゴル語の間接疑問縮約構文に関する研究：格一致効果の観点から
14:50-15:20	[E-4] 岩井 恵利奈 米国大統領演説におけるレスポンス誘出のための発話連鎖の連結—話し手と聴衆間のインタラクションの視点から—	[F-4] 永次 健人, 菅沼 健太郎 文断片の直接生成分析—トルコ語目的語からの証拠—
15:20-15:40	休憩	
15:40-16:10	[E-5] 安永 大地, 矢野 雅貴, 小泉 政利, 八杉 佳穂 カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について	[F-5] 前田 晃寿 副詞節内における演算子の派生に関する考察
16:15-16:45	[E-6] 立山 憂, 矢野 雅貴, 坂本 勉 依存関係の構築における予測処理について —ERPを指標とした日本語譲歩文の研究—	[F-6] 平田 一郎 日本語の時制形態素のLexicalist的分析
16:55-17:25	[E-7] 矢野 雅貴, 立山 憂, 坂本 勉 gap-filler依存関係の処理について—文脈を用いた日本語分裂文のERP研究—	[F-7] 田口 祐衣 極小主義モデルに基づく空移動仮説：wh疑問文における主語と目的語の非対称性について
17:30-18:00	[E-8] 深谷 修代 否定why疑問文の習得に関する縦断研究	[F-8] 遠藤 喜雄, 岩崎 永一 指定的疑似分裂文の派生：カートグラフィー・アプローチ

	G 会場 (27 番教室) 司会：[1-2]上田 由紀子 [3-4]奥 聡 [5-6]本間 猛 [7-8]栗林 裕
13:00-13:30	[G-1] Hisashi MORITA Different Triggers for Successive-Cyclic Movement in Sinhalese and Japanese <i>Wh</i> -questions
13:35-14:05	[G-2] Fumikazu NIINUMA, Hideya TAKAHASHI External Cause and the Structure of <i>vP</i> : A Case from <i>Sar(u)</i> Expressions in Iwate Dialects
14:15-14:45	[G-3] Junya NOMURA Licensing Null Associative Plurals in Kaqchikel
14:50-15:20	[G-4] Yoshiyuki SHIBATA A-reconstruction as a type-sensitive phenomenon
15:20-15:40	休憩
15:40-16:10	[G-5] 倉部 慶太 ジンポー語における成節鼻音の声調について
16:15-16:45	[G-6] 三村 竜之 ノルウェー語 Sandnes (サンネス) 方言における「アクセント句」と「句音調」の提唱
16:55-17:25	[G-7] 平田 未季 注意概念を用いたソ系の直示用法と非直示用法の統一的分析
17:30-18:00	[G-8] 川嶋 正士 交差分類と述語論理による5文型の再編成

■ワークショップ (6月16日(日) 10:00-12:00)

A会場 (11番教室)	[W-1] Syntactic Structure and the Interpretation of Tense and Aspect Workshop Moderator & Organizer : Nobuko HASEGAWA
	[W-1-1] Tenses and Sequences of Tenses: When Past doesn't Past-shift Tim STOWELL
	[W-1-2] Tense and Aspect of Japanese Root Modals Satoshi TOMIOKA
	[W-1-3] Clause Types, Predicate Types, and Tense Interpretation in Japanese Nobuko HASEGAWA
E会場 (15番教室)	[W-2] ユーラシア北東部諸言語の名詞項標示 企画：江畑 冬生 司会：永山 ゆかり コメンテーター：風間 伸次郎
	[W-2-1] アリュートル語の自他両用動詞における名詞項標示 永山 ゆかり
	[W-2-2] コリマ・ユカギール語の名詞項標示 長崎 郁
	[W-2-3] チュルク諸語における目的語格選択の要因：サハ語を中心に 江畑 冬生

■ポスター発表 (6月16日(日) 11:00-12:50)

ポスター会場1 (28演習室)	[P-1] 李 在鎬 形容動詞の「ナ」共起と「ノ」共起のコーパス基盤調査
	[P-2] 王 慶 中国語の全称量化解釈の仕組み
ポスター会場2 (29演習室)	[P-3] Seth GOSS Working memory or pitch sensitivity? Pitch accent perception by native speakers of Japanese
	[P-4] 高山 林太郎 四モーラ豊語のアクセントの品詞による合流と品詞を越えた合流

《会場へのアクセス》

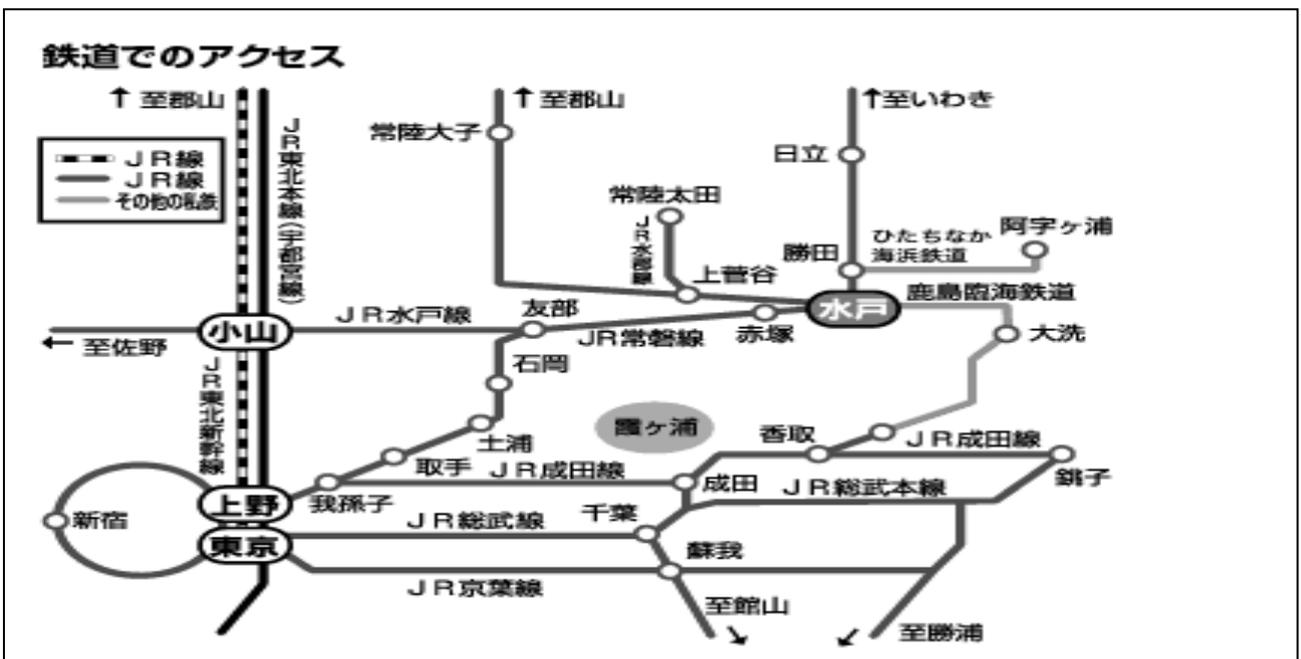
東京からの交通アクセス

鉄道：JR 上野駅 17 番線（一部 16 番線）から常磐線特急（上野駅発は毎時 00 分と 30 分）に乘車し、水戸駅下車。上野・水戸間、1 時間 5 分～1 時間 15 分。水戸駅から茨城交通バスで最寄バス停（p.6 参照）まで 30 分程度。最寄バス停から会場受付まで徒歩 10 分。（上野駅から受付まで 2 時間程度）水戸駅発上野行特急は、毎時 27 分と 52 分。

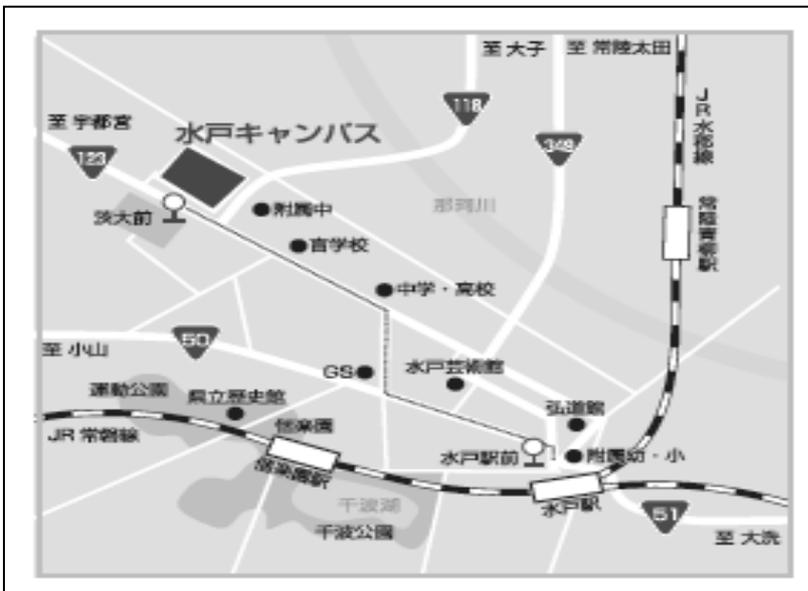
高速バス：JR 東京駅八重洲南口から茨大経由の水戸駅南口行高速バス（茨城交通、関東鉄道、JR バス関東の共同運行）に乘車し茨大前下車（1 時間 37 分）。「茨大前」バス停から会場受付まで徒歩 10 分。東京駅発時間：8:30, 10:50, 11:50, 12:50, 16:40, 17:50, 19:00, 20:10, 21:10, 21:40。座席定員制。予約不可。乗車券は東京駅八重洲南口で乗車時に券売機で購入。

茨大前発 JR 東京駅日本橋口行時間：（午前は省略）14:23, 15:43, 18:52。座席定員制。予約不可。「茨大前」バス停（p.6 地図の③）から乗車。乗車時に運賃支払。

航空機：羽田空港もしくは成田空港から(i) JR 東京駅へ行き高速バス、もしくは(ii) JR 上野駅へ行き JR 常磐線特急へ乗車。茨城空港は利用可能だが路線限定のため利便性が低い。



水戸駅から茨城大学までのアクセス



水戸駅からの交通アクセス

※水戸駅北口バス乗り場 5 番もしくは 7 番から茨城交通バス。所要時間 30 分。降車バス停から会場受付まで徒歩 10 分。料金は、いずれの経路も 320 円。

5 番乗場：「11 新原・茨大」（10 分～15 分間隔）に乗車し、茨大前営業所（終点、下記地図④）で下車。

7 番乗場：「12 栄町・茨大」か 12 系統以外の「茨大」（10 分～15 分間隔）に乗車し、茨大前営業所（終点、下記地図①）で下車。または「栄町・茨大」（10 分～15 分間隔）に乗車し、茨大前（終点ではない、下記地図③）で下車。

※水戸駅北口から茨城大正門前までタクシー。所要時間 15 分～20 分。1600 円前後。

茨城大学周辺のバス停



①「茨大前営業所」バス停。水戸駅行バス始発バス停。茨大行バス（11 系統以外）降車場所（終点）。

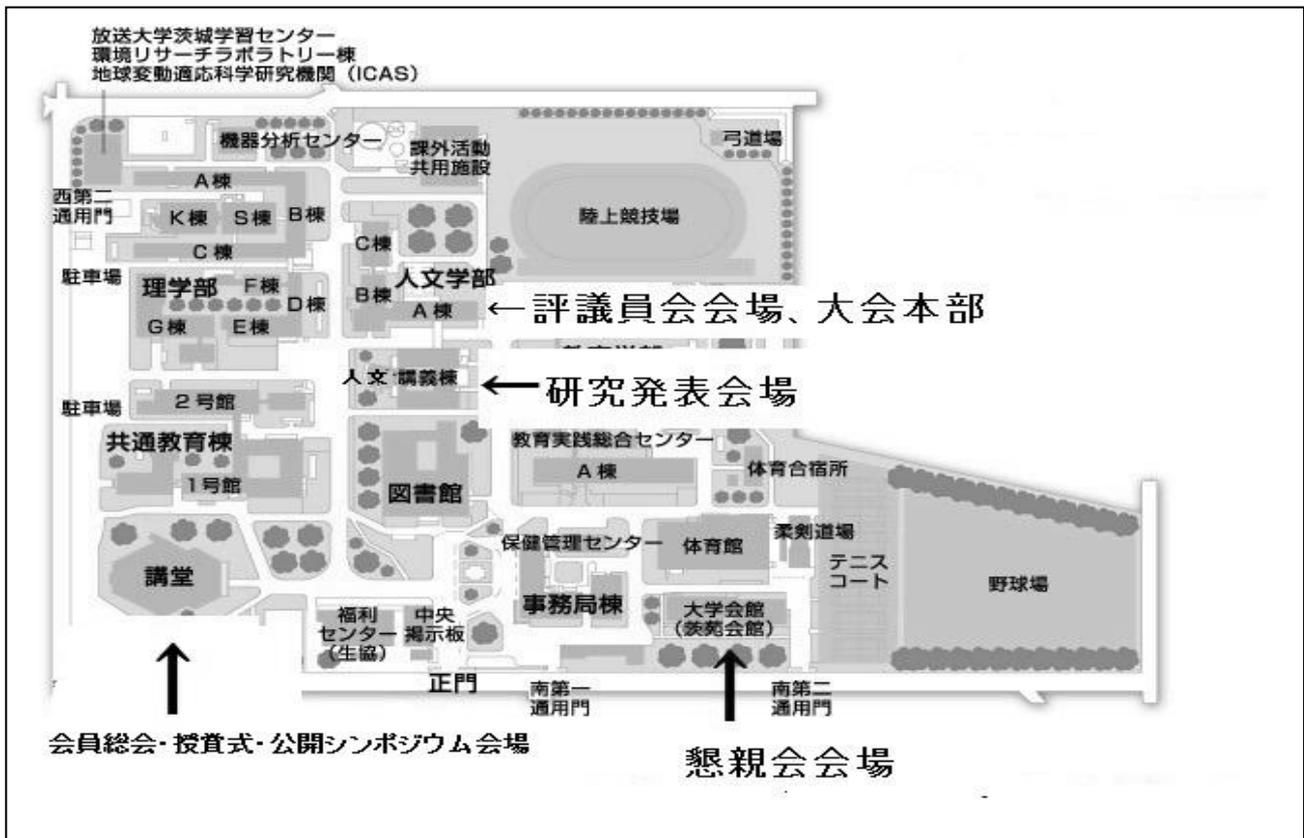
②「茨大前」バス停。栄町経由水戸駅行バス乗車場所。東京駅発茨大経由水戸駅行高速バス降車場所。

③「茨大前」バス停。栄町経由バス（「茨大行」以外）降車バス停（終点ではない）。東京駅行高速バス乗車バス停。

④「茨大前営業所」バス停（降車専用）。新原経由バス（11 系統）降車場所（終点）。

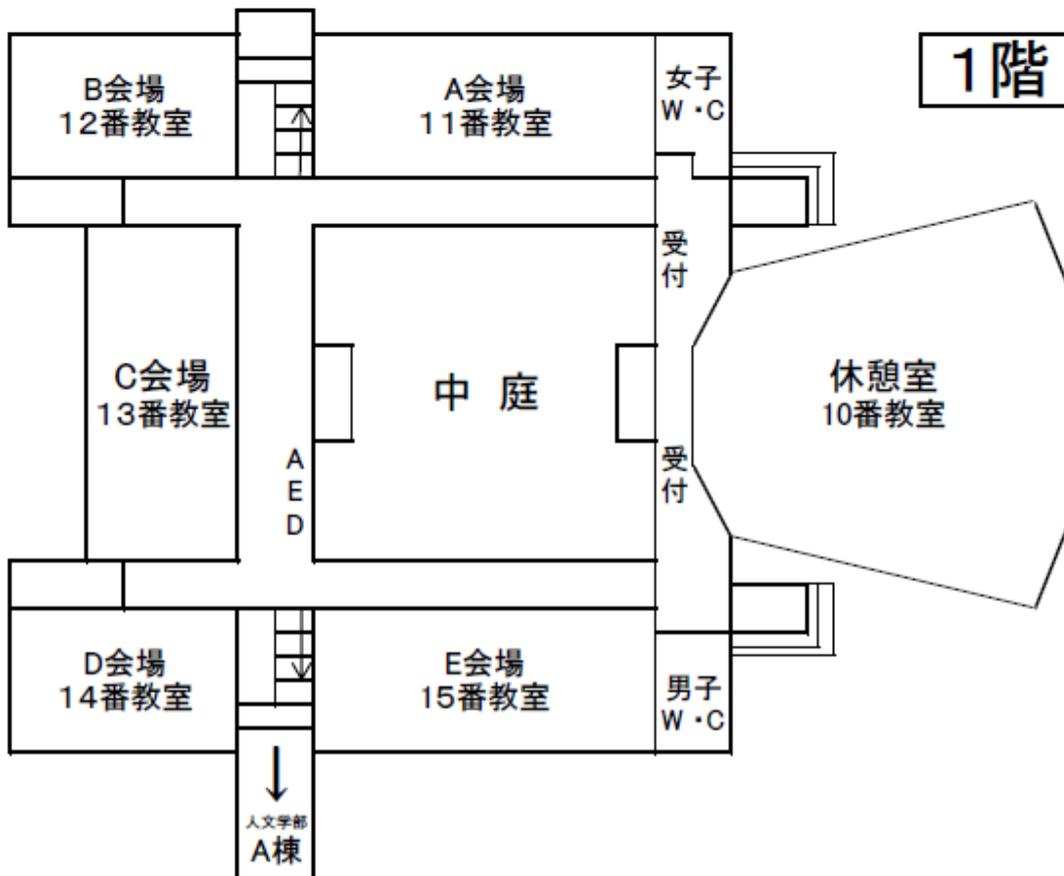
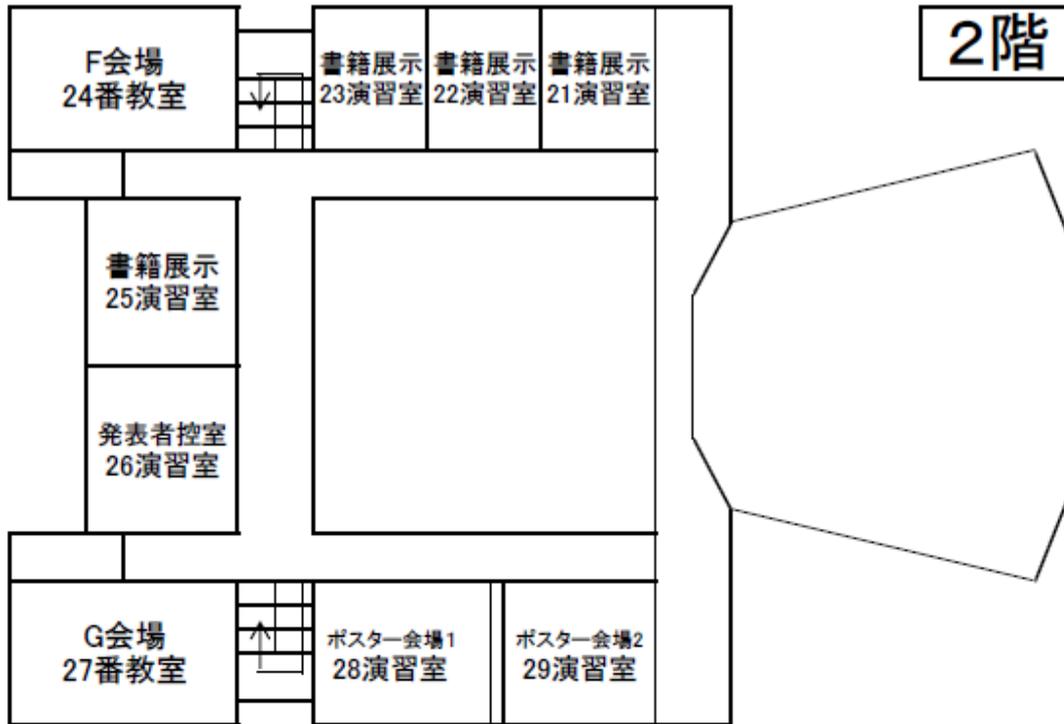
⑤「茨大正門前」バス停。土日は、水戸駅行バスは全便運休。「赤塚駅行」バスのみ、減便されるが、利用可能。赤塚駅行：12:16（日曜運休）、12:21、12:56、15:06、15:31（日曜運休）、15:46、17:06、17:56 常磐線特急は、赤塚駅から水戸駅へ普通列車で戻り水戸駅から乗車。

茨城大学水戸キャンパス建物配置図



《会場配置図》

人文学部講義棟



お知らせ

◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記し切手を貼った返信用封筒を同封の上、**5月31日（金）（必着）**までに学会事務支局までお申し込み下さい。

◆大会期間の昼食について

土曜は大学の食堂が営業しており利用可能です。

日曜は大学の食堂は営業していません。弁当の販売は行いませんので、当日は会場周辺のランチマップを受付で配布いたしますが、昼食は持参されることをお奨めいたします。休憩室での飲食は可能です。

◆懇親会の申し込み

懇親会へ参加ご希望の方は、大会当日に受付でお申し込み下さい。参加費は、一般 5,000 円、学生 3,000 円を予定しています。

◆大会予稿集の販売について

大会予稿集は、大会当日に受付にて販売します（1部 2,000 円）。大会前の予約・購入は受け付けていません。

◆保育室の設置

本大会では保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は、学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で、**5月26日（日）**までに保育室担当宛にメールでお申し込み下さい。

・利用可能時間：6月15日（土）12:45-18:15、6月16日（日）9:40-16:40

・料金：お子様1人1時間につき500円

◆車椅子の利用について

ご利用希望の方は**6月7日（金）**までにお申し込み下さい。（申込先:ibarakigengo@yahoo.co.jp）

◆手話通訳について

手話通訳をご利用希望の方はお早めに学会事務支局までご相談下さい。

◆書籍展示

書籍展示は、人文学部講義棟 2階 21-23, 25 演習室(予定)で行います。

◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

大会予稿集および『言語研究』のバックナンバー購入をご希望の方は、「号、購入部数、送付先」を明記の上、学会事務支局までお申し込み下さい。代金は送付時に同封される振込用紙にてご送金下さい。

また、今大会の予稿集も、残部がある場合購入していただくことが可能です（送料込みで1部 2,500 円）。

※在庫情報は学会ホームページをご覧くださいか、学会事務支局までご連絡下さい。

◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

次回大会予告（2013年秋季大会：第147回大会）

場 所：神戸市外国語大学（〒651-2103 神戸市西区学園東町 9-1）

日 程：11月23日（土・祝） 口頭発表

11月24日（日） 公開シンポジウム、ワークショップ、ポスター発表

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

・発表応募締め切り 2013年8月20日(火) (必着)

・採否通知 2013年9月20日頃

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacoss.com